ユピテル工業株式会社
YUPITERU

マルチバンドレシーバー

MVT-3300

取扱説明書

このたびは、ユピテルのマルチバンドレシーバーをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

⚠ 注意

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
なお、お読みになられたあとも、大切に保管してください。

本書の読みかた

MVT-3300をお使いになる前に、必ずお読みください。

はじめに
安全上のご注意や操作の前に準備しておくことが書かれています。

はじめてマルチバンドレシーバーをお使いになるかたは、まずここを習得してください。

VFOモード
MVT-3300の基本的な使いかたを説明しています。

すでにマルチバンドレシーバーを使いこなしているかたは、ここからお読みになっても操作できます。

サーチ
無線局を探して、電波を見つけると自動的に受信していく方法が書かれています。

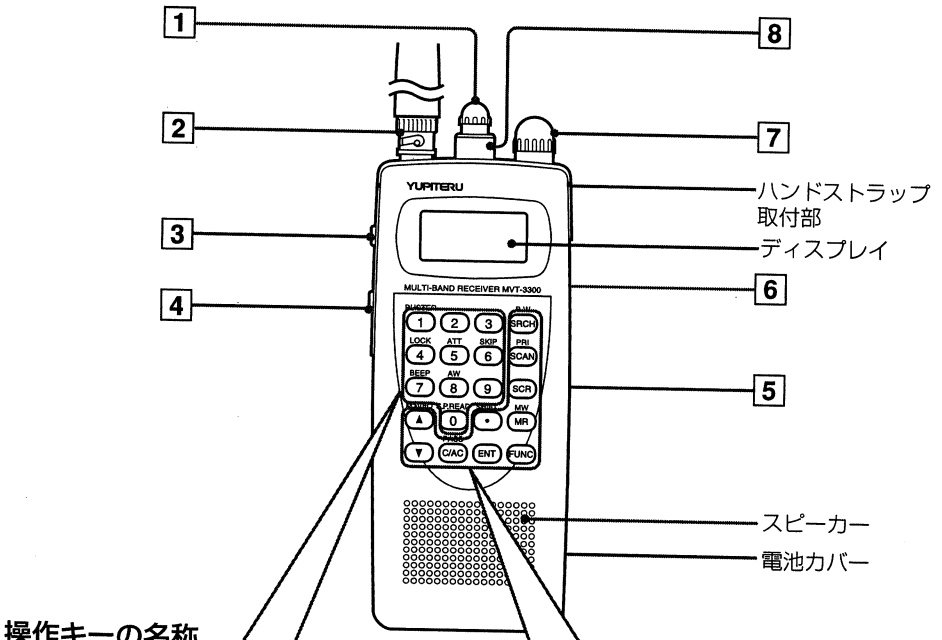
メモリーとスキャン
チャンネルメモリーへの登録方法と、これらのチャンネルメモリーを効率よく呼び出すスキャンについて書かれています。

その他の機能
覚えておくと便利な機能や、特殊な電波を受信するための設定などが書かれています。MVT-3300の豊富な機能を使いこなすためにお役立てください。

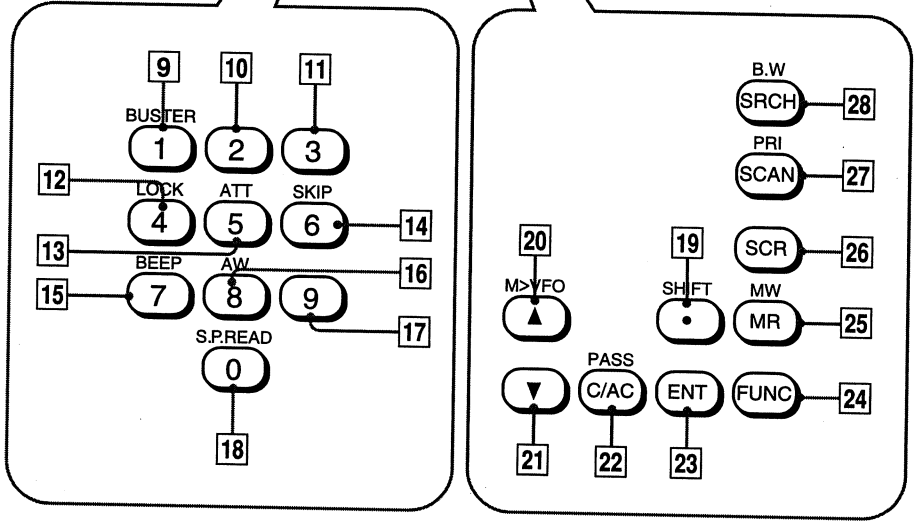
知っておきたいこと
「操作早見表」などがまとめられています。また、故障かな？と思ったときにもご覧ください。

各部の名称

本書をお読みになるときには、このページを開いてお読みください。



操作キーの名称



特　長

高速スキャン/サーチ機能
スキャン/サーチスピードは、1秒間に最大で40チャンネル/50ステップと高速です。
※バスタースキャンを除く

10チャンネルのプライオリティメモリー
10チャンネルの豊富なプライオリティメモリーにより、他の周波数を受信中でも、大事な電波を逃がさず受信できます。

盗聴電波の受信
VHFおよびUHF帯を使用した無線式盗聴器の電波を受信できるので、盗聴器の発見にも使えます。

秘話解読機能
音声反転方式の秘話通信を、通常音声に戻して受信できるディスクランブル回路を内蔵しています。

面倒な設定がいらないプリセット機能
受信したい周波数帯に合った周波数ステップと受信モードなどがあらかじめ設定されます。簡単操作で、効率的な受信ができます。

デュープレックス受信機能
決められた周波数で相互に交信している無線局を受信する場合、その2つの周波数を切り換えながら、スムーズに受信できます。

10バンドサーチ機能
地域防災無線や航空無線、パーソナル無線など主要10バンドのデータはあらかじめ登録されていますので、周波数を調べずに簡単に受信できます。また、お好みの周波数帯に変更することもできます。

200チャンネルメモリー機能
受信したいチャンネルを最大200チャンネルまで登録できるチャンネルメモリー機能。さらに、そのチャンネルメモリーを効率良く受信するメモリースキャンやバンクスキャン機能を備えています。

どこでも使える3電源方式
豊富な付属品により、乾電池やニッカド電池での携帯使用やＡＣアダプターによる家庭電源使用、シガープラグ(12Vシガーライターソケット使用)による車載使用ができます。

目　次

はじめに
特長 4
安全上のご注意 6
使用上のご注意 9
各部の名称とはたらき 10
付属品の確認と取り付け 14
電源について 15

VFOモード
準備 16
VFOモードで受信する 17
選局する 18
デュープレックス受信 20

サーチ
VFOサーチモード 22
バンドサーチモード 23
サーチバスメモリー 24

メモリーとスキャン
チャンネルメモリー 26
スキャン 29
プライオリティ 31

その他の機能
サーチやスキャンの付加機能 32
バンド内容を登録(変更)する 33
便利な機能 34
初期設定について 36

知っておきたいこと
故障かな？と思ったら 39
アフターサービスについて 40
仕様 41
操作早見表 42

安全上のご注意

次ページに続く

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。ここに記載された注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用するかたへの危害や損害を未然に防止するためのものです。安全に関する重大な内容ですので、必ず守ってください。また、注意事項は危害や損害の大きさを明確にするために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。

⚠警告：警告を無視した取り扱いをすると、使用者が死亡や重傷を負う可能性があります。

⚠注意：注意を無視した取り扱いをすると、使用者が傷害や物的損害をこうむる可能性があります。

絵表示について

△記号は注意を促す内容であることを告げるものです。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

●記号は行為を強制したり、指示を告げるものです。

⚠警告

水をつけたり、水をかけない。また、ぬれた手で操作しない
火災や感電、故障の原因となります。

風呂などで使用しない。また、ぬれた手で電源を抜き差ししない
感電の原因となります。

表示された電源電圧以外では使用しない
火災や感電、故障の原因となります。

電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、加工しない。また、電源コードが傷んだら使用しない
感電やショートによる発火の原因となります。

電源に接続する場合に分岐やタコ足配線をしない
異常過熱や発火、故障の原因となります。また、カー電源に接続する場合は、極性にご注意ください。本機はマイナスアース車専用です。

ACアダプターやシガープラグの差し込みは、確実に行う
接触不良を起こして、火災の原因となります。

ACアダプターやシガープラグの差し込み部分のホコリはよくふく
接触不良を起こして、火災の原因となります。

ACアダプターやシガープラグは付属のもの以外は使用しない
火災や感電、故障の原因となります。

⚠警告

穴やすき間にピンや針金などの金属を入れない
火災や感電、故障の原因となります。

機器本体および付属品を改造しない
火災や感電、故障の原因となります。

万一、キャビネットを破損した場合は、すぐにACアダプターやシガープラグを抜く
そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。

雷が鳴りだしたら使用を中止する
感電の原因となります。

サービスマン以外の人は、絶対に機器本体および付属品を分解したり、修理しない
感電や故障の原因となります。内部の点検や調整、修理は販売店にご依頼ください。

運転中は絶対に操作しない
わき見運転は重大事故の原因となります。

自動車で使用する場合、運転の妨げにならない場所、また、自動車の機能（ブレーキ、ハンドル等）の妨げにならない場所に取り付ける
誤った取り付けは、交通事故の原因となります。

自動車で使用する場合、助手席エアバックの近くに取り付けたり、配線をしない
万一のとき、動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。また、電源コードが妨げとなり、エアバックが正常に動作しないことがあります。

煙が出ている、変な臭いがするなど、異常な状態のまま使用しない
発火の恐れがあります。すぐにACアダプターやシガープラグを抜いて、販売店に修理をご依頼ください。

⚠注意

電源コードを熱機具に近づけない
コードの被覆が溶けて、火災や感電の原因となります。

不安定な場所や振動、衝撃の多い場所に置かない
落ちたり、倒れたりして、ケガや故障の原因となります。

電源を抜くときは、電源コードを引っ張らない
コードに傷がついて、感電やショートによる発火の原因となります。

移動させるときは、ACアダプターやシガープラグを外す
コードに傷がつき、火災や感電の原因となります。

電池を入れるときは、極性に注意し、指示通り入れる
間違えて入れると、電池の破裂や液漏れにより、火災やケガ、周囲を汚損する原因となります。

指定以外の電池は使用しない、また、古い電池を混ぜて使用しない
電池の破裂や液漏れにより、火災やケガ、周囲を汚損する原因となります。

使用済みの電池を火中に投げ入れない
爆発して火災や火傷の原因となります。

お手入れの際は、ACアダプターやシガープラグを外す
感電の原因となります。

長時間ご使用にならないときは、ACアダプターやシガープラグを外す
絶縁劣化による感電や、漏電火災の原因となります。

長時間ご使用にならないときは、中の電池を抜く
液漏れにより、周囲を汚損する原因となります。

イヤホンやヘッドセットで使用するときは、音量に注意する
突然の大きな音で耳を傷める恐れがあります。

旅客用飛行機の中では使用しない
飛行機の計器に異常を与える可能性があります。

病院の中では使用しない
医療用電気機器に電波による影響を与える可能性があります。医療機器の近くでは電源を切り、絶対に使用しないでください。

使用上のご注意

取り扱いについて

■本機が汚れたときは、柔らかい布などでふいてください。ポリエステルなどの静電気が起きやすいもの、ベンジンやシンナー、化学ぞうきん、洗剤は使用しないでください。

■本機は広帯域受信機ですので、受信機内部の発振（スプリアス）により受信できなかったり、混信や雑音を発生する周波数があります。また、テレビやラジオなどの近くで使用した場合には、影響を与えることがあります。
■他の無線機やテレビ、ラジオ、パソコン等のデジタル機器の近く、車内などでは雑音が入る場合があります。
■次のような場所での使用や放置はしないでください。
- 直射日光の当たる場所や暖房器具の近く、あるいは炎天下の自動車内など温度の高くなる場所
- 湿度の高い場所や風通しの悪い場所
- ホコリや油煙の多い場所
- 非常に温度が低い場所

電源について

■ニッカド電池を使用するときは、市販の充電器で充電してからお使いください。
■アルカリ電池の連続使用時間は約14時間（ランプオフ、音量中位のとき）です。（連続使用時間は受信状態により変化します）

無線局について

■一部の機密を要する無線では、音声として聴くことのできない通信方式（デジタル通信など）が採用されています。

メモリーについて

■本体のPWR/VOLツマミ[1]で電源を切ると、その状態がメモリーされます。本体の電源を入れたまま外部電源の抜き差しや、電池の出し入れをすると、最後の状態はメモリーされず、次に電源を入れたときにその前の状態で始まります。カー電源に接続している場合、使用しないときは、必ず本体の電源を切ってください。

アンテナについて

■受信状況は、ご使用になる場所やアンテナによって変化します。
■付属のフレキシブルアンテナ以外に市販のアマチュア無線用のアンテナなども使用することができますが、その際は、目的とする周波数に合ったアンテナをご用意ください。ただし、増幅回路付きの外部アンテナは使用しないでください。故障の原因となります。
■本機のANT端子はBNC型、インピーダンスは50Ωです。
■ご使用になる場所やアンテナによってはテレビ放送などの強い電波の影響を受けて受信できないことがあります。

受信内容について

■お客様が受信した内容は、電波法上、第三者に漏らしたり、行動に移したりすることが禁止されています。

万一、異常や不具合が起きたときは、すぐに使用を中止し、お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にご相談ください。

各部の名称とはたらき

次ページに続く

本　体

1 PWR/VOLツマミ(電源/音量調節)
右に回すと電源が入り、さらに回すと音量が大きくなります。

2 ANT端子(アンテナ接続)
アンテナを接続します。

3 LAMPボタン(ランプ)
ディスプレイとキーボードを明るくさせることができます。
※夜間の照明としてお使いください。

4 MONIボタン(モニター)
受信信号が弱く、音声が途切れるときなどに聞き取りやすくします。

5 DC12Vジャック(外部電源)
付属のＡＣアダプターやシガープラグを接続します。

6 EAR端子(外部スピーカー)
外部スピーカーやイヤホンを接続します。この端子に接続すると、本体のスピーカーからの音は出なくなります。

7 DIALツマミ(チューニング)
周波数やチャンネルメモリーを移動します。また、秘話交信を受信中にディスクランブルのレベルを調整し、聞きやすくします。

8 SQLツマミ(スケルチ調整)
無信号時の"ザー"という雑音を消すことができます。受信信号を効率よく受信するために使います。

キーボード

操作キーは、直接キーを押したときと、FUNCキー[24]との組み合わせで2通りのはたらきをします。

B.W(SRCH) ── ファンクションモードの操作
　　└ ダイレクト入力モードの操作

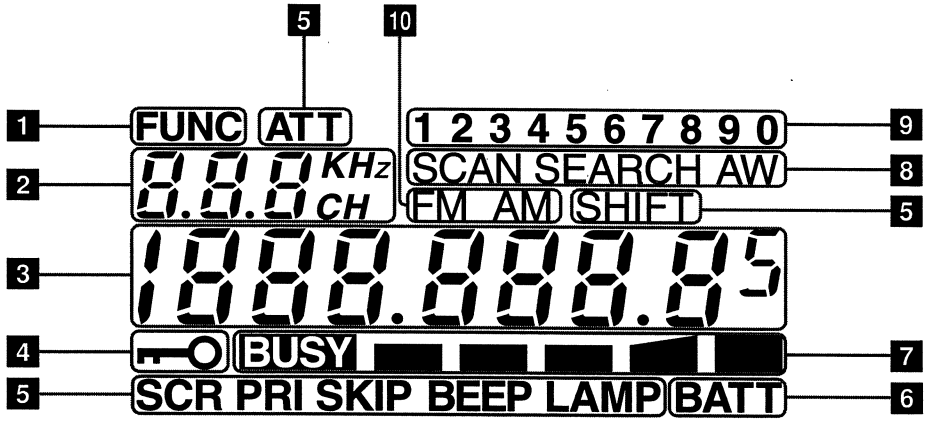
ダイレクト入力モード
直接キーを押したとき

操作キー		機　能
9	BUSTER 1	数字キー（1）
10	2	数字キー（2）
11	3	数字キー（3）
12	LOCK 4	数字キー（4）
13	ATT 5	数字キー（5）
14	SKIP 6	数字キー（6）
15	BEEP 7	数字キー（7）
16	AW 8	数字キー（8）
17	9	数字キー（9）
18	S.P.READ 0	数字キー（0）
19	SHIFT •	小数点キー（.）
20	M>VFO ▲	アップキー
21	▼	ダウンキー
22	PASS C/AC	クリア/オールクリアキー
23	ENT	エンターキー
24	FUNC	ファンクションキー
25	MW MR	メモリーリードキー
26	SCR	スクランブルキー
27	PRI SCAN	スキャンキー
28	B.W SRCH	サーチキー

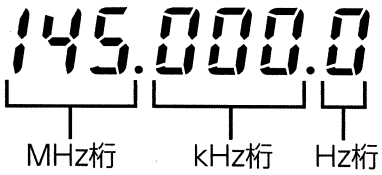
ファンクションモード
ＦＵＮＣキー[24]を押して、[FUNC]が点灯中にキーを押す

操作キー		機　能
24 → 9	FUNC ▶ BUSTER 1	バスターキー
24 → 12	FUNC ▶ LOCK 4	ロックキー
24 → 13	FUNC ▶ ATT 5	アッテネーターキー
24 → 14	FUNC ▶ SKIP 6	スキップキー
24 → 15	FUNC ▶ BEEP 7	ビープキー
24 → 16	FUNC ▶ AW 8	オートライトキー
24 → 18	FUNC ▶ S.P.READ 0	サーチパスリードキー
24 → 19	FUNC ▶ SHIFT •	シフトキー
24 → 20	FUNC ▶ M>VFO ▲	メモリーVFOキー
24 → 22	FUNC ▶ PASS C/AC	パスキー
24 → 25	FUNC ▶ MW MR	メモリーライトキー
24 → 27	FUNC ▶ PRI SCAN	プライオリティキー
24 → 28	FUNC ▶ B.W SRCH	バンドライトキー

ディスプレイ



■周波数表示の見かた



1 ファンクション表示
ファンクションモードにすると点灯します。

2 周波数ステップ/チャンネルメモリー表示部
サーチやVFOモード中に周波数ステップを表示します。
スキャン中にチャンネルナンバーを表示します。また、プライオリティチャンネルは2桁目に[P]が表示されます。

3 周波数表示部
選んだ周波数や入力中の数値を表示します。

4 ロック表示
ロックにすると点灯します。

5 設定状態表示部
機能の設定状態を表示します。

6 ローバッテリー表示
電池が消耗し、充電や電池の交換が必要なときに点灯します。

7 受信レベル(Sメーター)表示部
選択されている電波の状態を表示し、受信するとBUSY表示が点灯します。

8 動作モード表示
サーチやスキャンなどの動作状態を表示します。

9 バンド/バンクナンバー表示部
選択されているバンドや、バンクのナンバーを表示します。

10 受信モード表示
選択している受信モード(電波型式)を表示します。

付属品の確認と取り付け

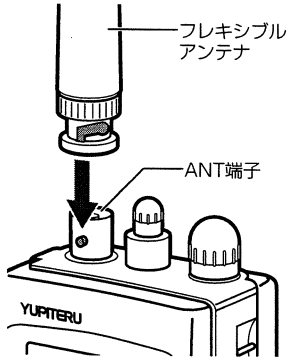
付属品リスト

ご使用の前に、付属品をご確認ください。

- フレキシブルアンテナ ..... (1)
- ＡＣアダプター ..... (1)
- シガープラグ ..... (1)
- ハンドストラップ ..... (1)
- イヤホン ..... (1)
- 取扱説明書 ..... (1)
- 保証書 ..... (1)

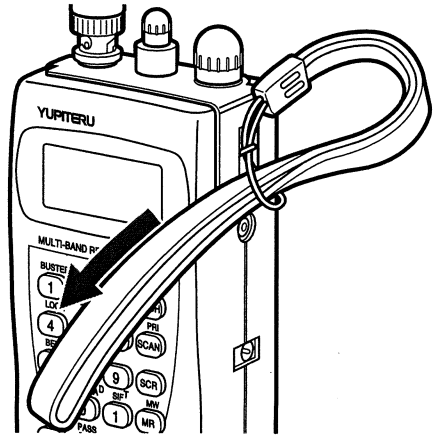
アンテナの取り付けかた

付属のフレキシブルアンテナの溝と、ANT端子の凸部を合わせて差し込み、軽い手応えがあるまで時計方向に回します。



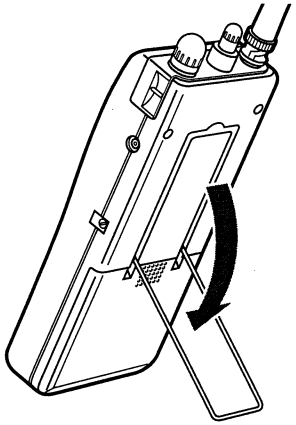
ハンドストラップの取り付けかた

ハンドストラップ取付け部に、図のように取り付けます。



卓上スタンドの使いかた

背面の卓上スタンドで、図のように立てて使用できます。



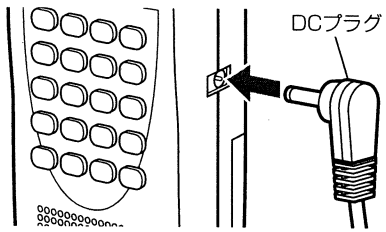
電源について

本機は、付属のACアダプターやシガープラグを接続しての外部電源(家庭用電源、カー電源)での使用や、アルカリ電池やニッカド電池での携帯使用ができます。

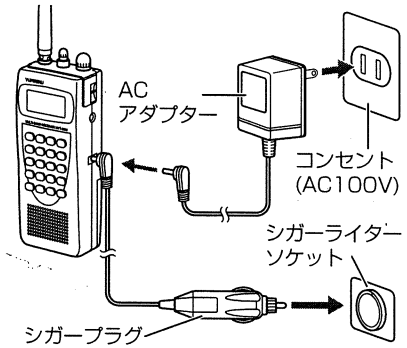
外部電源で使う

1 DC12Vジャック[5]にACアダプターやシガープラグのDCプラグを接続する

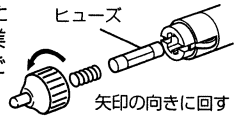
ACアダプターやシガープラグを接続するときは、必ず電源を切った状態で行ってください。



2 ACアダプターやシガープラグを、家庭電源コンセント(AC100V)や車のシガーライターソケット(DC12V)に接続する



- ACアダプターやシガープラグは、付属のもの以外は使用しないでください。
- 付属のシガープラグは、DC12V⊖接地車専用です。24V車(大型トラック、バス等)では、使用できません。
- シガープラグ内部のヒューズが切れた場合は、新しいヒューズ(1A)と交換してください。また、交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、使用を中止し、シガープラグを抜いてお買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にご相談ください。

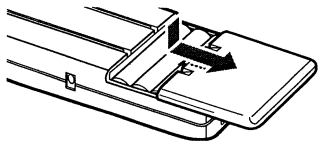


アルカリ電池やニッカド電池で使う

電池をセットする

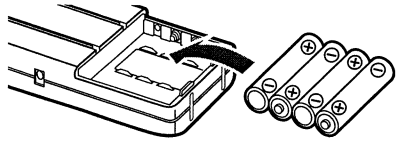
1 電池カバーを外す

電池をセットするときは、必ず電源を切った状態で行ってください。



2 電池4本を内部の指示に従ってセットし、電池カバーを閉める

本機は、外部電源を接続して内蔵したニッカド電池を充電することはできません。



- 種類の違う電池や古い電池などを混ぜて使用しないでください。
- 長時間使用しないときは、電池を抜いてください。

ローバッテリー表示について

電池の残量が少なくなると、[BATT]が点灯します。
[BATT]が点灯したときは、新しい乾電池、または市販の充電器で充電したニッカド電池に入れ換えてください。

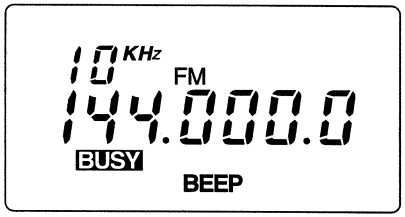
- 電池の残量が完全になくなった場合は、ディスプレイになにも表示されません。

準　備

1 SQLツマミ[8]を左に回しきる

2 電源を入れる

PWR/VOLツマミ[1]を右に回すと電源が入ります。



- 購入後、初めて電源を入れたときはVFOモードになります。

3 音量を調節する

PWR/VOLツマミ[1]を回して調節します。

4 受信状態を調整する(スケルチ調整)

"ザー"というノイズが出ているときは、ノイズが消える位置までSQLツマミを右に回します。このとき、モニターボタン[4]は押さないでください。(「モニター機能」34ページ)
また、音声が出ているときは、SQLツマミを中程の位置にします。

- SQLツマミを右に回しすぎると弱い電波が受信できなくなり、左に回しすぎると雑音などを受信してしまうので、聞きたい電波に合わせて調整します。

VFOモードで受信する

このモードでは、数値キーやDIALツマミ、▲▼キーを使って周波数を入力したり、変更することができます。VFOモードは、ディスプレイに[PRI]や設定状態表示部([SRCH]、[SCAN])、周波数ステップ/チャンネルメモリー表示部にチャンネルナンバーやP表示(P)ではなく、周波数ステップが点灯している状態です。
購入後、初めて電源を入れたときはVFOモードになります。

VFOモードにする

次の4つの方法があります。

[SRCH]が点灯中
SRCHキー[28]を押す

[SCAN]が点灯中
MRキー[25]を2回押す

チャンネルナンバーが点灯中
MRキー[25]を押す

[P]が点灯中
FUNCキー[24]を押してからSCANキー[27]を押す

プリセットについて

電波は使用する目的や周波数帯によって、受信モード(電波型式)や周波数ステップ(周波数の間隔)の割り当てが異なります。
本機は、あらかじめ周波数帯に合わせて、受信モードや周波数ステップ情報が設定されています。

■PRESET区分表

No.	下限周波数(MHz)	上限周波数(MHz)	STEP周波数(kHz)	受信モード
1	108.00000	141.97500	25	AM
2	142.00000	154.99000	10	FM
3	155.00000	170.00000	12.5	FM
4	300.00000	429.98750	12.5	FM
5	430.00000	440.01000	10	FM
6	440.01250	470.00000	12.5	FM
7	806.00000	903.00625	6.25	FM
8	903.01250	904.98750	12.5	FM
9	905.00000	1000.00000	6.25	FM

選局する

数字キーによる選局

VFOモードのとき、数字キーを使って周波数を入力することができます。

1 受信したい周波数を、上の位から順に入力する

MHz桁、小数点キー、kHz桁、Hz桁の順に入力します。入力途中の数字は点滅します。

2 ENTキー23を押す

入力が確定し、周波数が点滅から点灯に変わります。

- MHzは最大4桁まで入力できます。小数点キー(.)19を押さずに5桁目を入力すると、はじめに入力した数値から無効になります。また、kHzとHzは合わせて5桁まで入力できます。小数点キー(.)を押したあとに6桁目を入力すると"ポポ"と鳴り、6桁目は受け付けません。
- 入力された数値は、周波数ごとにあらかじめ設定されている周波数ステップ、受信モードなどの設定状況に合った数値に変更されて確定されます。また、入力された数字が本機の受信範囲以外の場合は"ポポ"と鳴り、[Error]が一瞬表示され入力前の表示に戻ります。
- 周波数の入力中に約10秒以上操作が行われないと入力できず、操作前の表示に戻ります。

入力例

① 3 4 5 ENT と入力した場合

入力キー	表示
3	---- --- 3-
4	---- --3.4-
5	---- -34.5-
ENT	345.000.0

② 2 1 0 0 0 ENT と入力した場合

入力キー	表示
2	---- --- 2-
1	---- --2.1-
0	---- -21.0-
0	---- 210.0-
0	---- 100.0-
ENT	1000.000.0 (始めに入力した2が無効になる)

③ 8 7 6 • 9 8 7 6 5 4 ENT と入力した場合

入力キー	表示
8	---- --- 8-
7	---- --8.7-
6	---- -87.6-
.	-876.--- --
9	-876.9-- --
8	-876.98- --
7	-876.987.--
6	-876.987.6-
5	-876.987.65
4	-876.987.65 (エラー音が鳴り受け付けない)
ENT	876.987.5

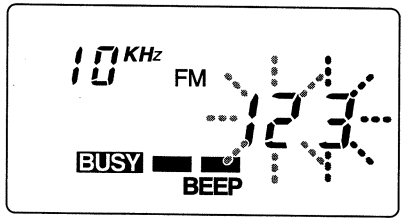
周波数ごとにあらかじめ設定されている周波数ステップにより確定される周波数は異なりますが、この場合に確定される周波数は876.987.5となります。

周波数の変更や訂正

周波数の入力中に、桁を選んで数字を変更することができます。

1 C/ACキー22を押す

下1桁が早く点滅します。



- C/CAキー22をもう1度押すと、VFOモードに戻ります。

2 ▲キー20または▼キー21を押して、訂正する桁を選ぶ

早く点滅している桁が訂正できます。

3 正しい数字を入力する

DIALツマミ7や数字キーで正しい数字を入力します。

4 ENTキー23を押す

入力途中の状態に戻ります。
続けて入力する場合は、次の数字を入力します。

- 約10秒以上操作が行われないときには、操作前の表示に戻ります。

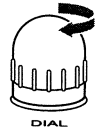
5 もう1度、ENTキー23を押す

入力が確定します。

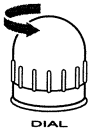
DIALツマミによる選局

VFOモードのとき、DIALツマミ7を回すと、決められた周波数ステップで1ステップずつ周波数が変わります。

周波数を進める
DIALツマミ7を右に回す



周波数を戻す
DIALツマミ7を左に回す



▲キーまたは▼キーによる選局

VFOモードのとき、▲キー20または▼キー21を押すと、決められた周波数ステップで1ステップずつ周波数が変わります。

周波数を進める
▲キー/を押す

周波数を戻す
▼キー:を押す

▲キー20または▼キー21を約1秒以上押し続けると、押されている間は周波数の早送り、または早戻しができます。

デュープレックス受信

決められた2つの周波数を使い交信(デュープレックス交信)している無線局を受信するときに、その2つの周波数をワンタッチで切り換えて聞くことができます。

例) 国際マリンバンドでの船舶と海岸局の間の交信を受信する場合、船舶の周波数を受信中に、海岸局側の周波数に切り換えて聞くことができます。

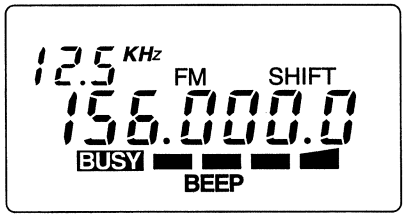
デュープレックスモードに設定する

1 FUNCキー[24]を押す

[FUNC]が点灯します。

2 小数点キー(.)[19]を押す

[SHIFT]が点灯し、デュープレックスモードになります。



解除するときは、もう1度手順1、2を行います。

- デュープレックス交信していない無線局を受信中でも、デュープレックスモードに設定することができます。
- デュープレックス交信では、2つの周波数の間隔(シフト幅)が決められています。MVT-3300では、受信できる周波数の中で、定められているシフト幅を、あらかじめプリセットしています。
(シフト幅の一覧については、37、38ページをご覧ください)

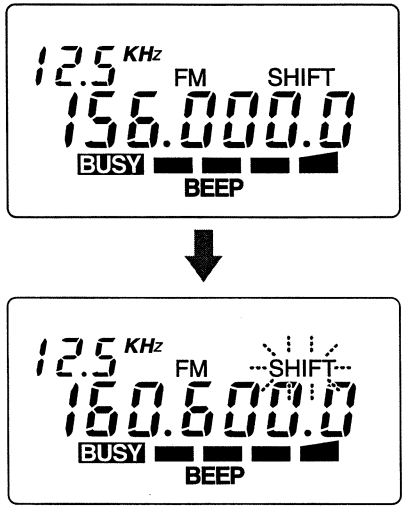
周波数を切り換えて聞く

1 [SHIFT]の点灯を確認する

2 MONIボタン[4]を押す

押している間は[SHIFT]が点滅し、もう一方の周波数が聞けます。
放すと元の周波数が聞けます。

受信中の周波数



もう一方の周波数
(MONIボタンを押している間)

音声反転(スクランブル)の秘話交信を聞く

小電力コードレスなどの秘話機能には、音声を反転させて送信し、受信したあと、もう1度反転させて通常の音声に戻す方式が多く使われています。それらの電波は、音声が反転されているため、通常の音声として聞くことができません。MTV-3300では、反転された音声の電波を受信した場合でも、通常の音声に戻して聞くことができます。

1 音声反転の秘話交信を受信中にSCRキー[26]を押す

[SCR]が表示され、通常の音声に戻されて、通話が聞こえます。

2 DIALツマミ[7]を回し、聞き取りやすく調整する

- 音声反転以外の秘話交信を、通常の音声として聞くことはできません。
- 通常の音声を受信するときは、SCRキー[26]を押さないでください。
- 音声反転された交信を受信中には、音質が変わることがあります。

解除するときは、もう1度SCRキー[26]を押してください。

※[SCR]が表示されているときは、DIALツマミで周波数を切り換えることはできません。

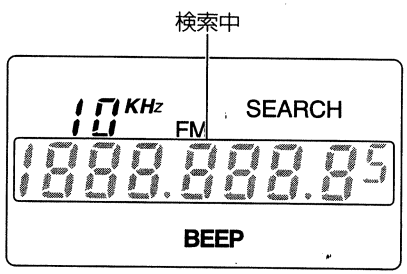
VFOサーチモード

VFOモードのとき、表示中の周波数からサーチさせることができます。

VFOサーチする

SRCHキー[28]を押す

[SEARCH]が点灯し、サーチがはじまります。



解除するときは、SRCHキー[28]を押します。[SEARCH]が消灯します。

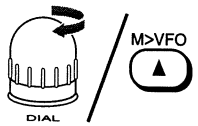
- サーチが停止中(受信中)にDIALツマミ[7]や▲キー[20]、▼キー[21]を操作すると、再びサーチがはじまります。

サーチの方向を変える

DIALツマミ[7]や▲キー[20]、▼キー[21]を操作する

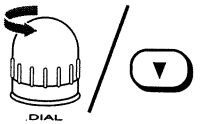
周波数の高い方へサーチ

DIALツマミ[7]を右に回す
または
▲キー[20]を押す



周波数の低い方へサーチ

DIALツマミ[7]を左に回す
または
▼キー[21]を押す



サーチ

バンドサーチモード

無線局の周波数がわからない場合でも、所属するバンド(周波数帯域)がわかっているときは、指定したバンド(最大4バンド)内をまとめてサーチさせることができる機能です。本機には1～9と0の計10種類の登録できるバンドがあり、あらかじめバンドが登録されていて、書き換えることもできます。

バンドの初期登録内容

■バンドメモリー初期値

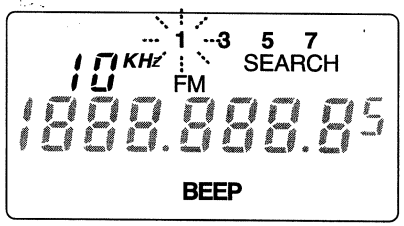
	名 称	下限周波数(MHz)	上限周波数(MHz)	STEP周波数(kHz)	受信モード
1	航空無線他	108.00000	141.97500	25	AM
2	消防、救急、防災他	146.02000	154.61000	10	FM
3	小電力コードレス	380.21250	381.31250	12.5	FM
4	アマチュア無線(UHF)	430.00000	440.00000	10	FM
5	タクシー無線	450.01250	451.50000	12.5	FM
6	地域防災行政無線	846.25000	849.75000	6.25	FM
7	MCA(業務)無線	850.01250	859.98750	6.25	FM
8	自動車・携帯電話(新電電系)	860.01250	869.98750	6.25	FM
9	自動車・携帯電話(NTT)	870.01250	884.98750	6.25	FM
0	パーソナル無線	903.03750	904.98750	12.5	FM

1 数字キーを押して、聞きたいバンドを指定する(バンド指定)

最大4つのバンドが指定できます。

2 SRCHキー[28]を押す

[SEARCH]とバンドNo.が点灯し、バンドサーチが始まり、サーチが停止するとバンドナンバーが点滅します。



解除するときは、SRCHキー[28]を押します。[SEARCH]が消灯します。

- サーチが停止中(受信中)にDIALツマミ[7]や▲キー[20]、▼キー[21]を操作すると、再びサーチが始まります。
- 指定した順番にかかわらず、バンドナンバーの低い順にサーチされます。(0は、バンド10を示します)
- 指定されたバンドの全チャンネルがサーチパス指定されていると、"ポポ"と鳴り、[ALL PASS]が約1秒間表示されます。
- バンドの初期登録内容は変更することができます。(「バンド内容を登録(変更)する」33ページ)

サーチ

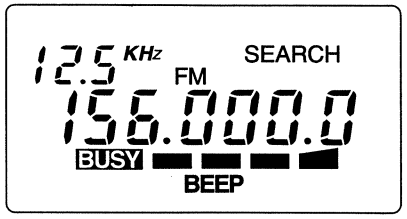
サーチパスメモリー

常に雑音が出ているなど、不要な周波数をサーチパスとして登録しておくと、サーチ中に受信しないでパスできますので、効率的にサーチさせることができます。

サーチパスに登録する

1 パスしたい周波数を受信する

VFOモードや各サーチモードで受信します。
ここではサーチモードの例を表記します。



2 FUNCキー[24]を押す

3 C/ACキー[22]を押す

"ピピッ"と鳴り、受信中の周波数がサーチパスに登録され、再びサーチが始まります。
次のサーチから受信しなくなります。
VFOモードでは、次の表示が出ます。

- 最大100まで登録できます。すべて登録されているときは、"ポポ"と鳴り、[FULL]が約1秒間表示され、登録を受け付けません。

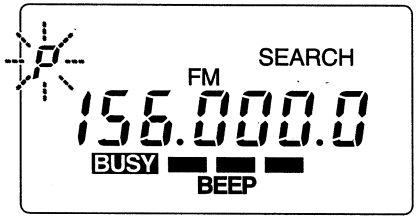
サーチパスメモリーリードする

登録しているサーチパスメモリーを呼び出して確認することができます。

1 FUNCキー[24]を押す

2 数字キー(0)[18]を押す

[P]が点滅し、受信中の周波数より高い周波数のうち、最も低いサーチパスされた周波数を呼び出して受信します。(周波数が高い方向にサーチしているとき)



- サーチパスに何も登録されていないと、"ポポ"と鳴り、[null]が約1秒間表示されます。

3 確認したいサーチパスメモリーを選ぶ

DIALツマミ[7]や▲キー[20]、▼キー[21]で選びます。
▲キーまたは▼キーを1秒以上押し続けると、早送りまたは早戻しができます。

解除するときは、C/ACキー[22]を押すか、もう1度手順1、2を行うと、操作する前の状態に戻ります。

サーチパスの登録を解除する

サーチパスに登録した周波数を解除することができます。

1 解除したい周波数を呼び出す

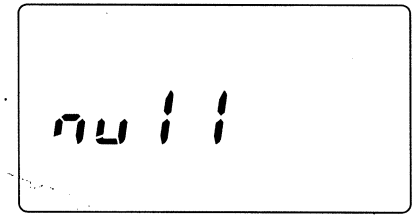
サーチパスメモリーリードで呼び出します。

2 FUNCキー[24]を押す

3 C/ACキー[22]を押す

"ピピッ"と鳴り、呼び出した周波数がサーチパスから解除されます。

- 解除すると、その周波数より1つが高い周波数のサーチパスが表示されます。
- すべてのサーチパスを解除すると、"ポポ"と鳴り、[null]が約1秒間表示され、サーチパスメモリーリードの前のモードになります。



チャンネルメモリー

よく聞くチャンネルメモリーとして登録してしておくことができます。
登録したチャンネルメモリーは、自動的に呼び出し(スキャン)しながら受信することができます。(29ページ)

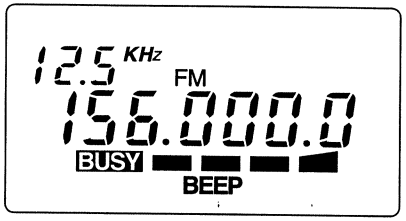
登録できる内容について

チャンネルごとに以下の内容が登録できます。
- 受信周波数
- 周波数ステップ(受信周波数により、自動的に設定されます)
- 受信モード(受信周波数により、自動的に設定されます)

チャンネルメモリーに登録する

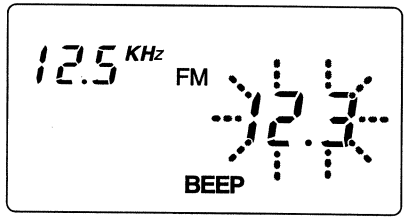
1 登録したい周波数を受信する

VFOモードや各サーチモードで受信します。



2 チャンネル番号を入力する

数字キーを押して、その周波数に0～199までの間でチャンネル番号を入力します。

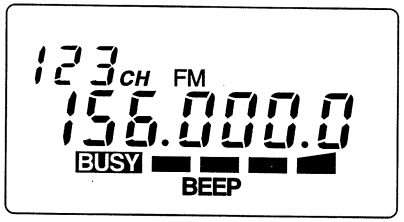


- チャンネル番号を入力せずに登録することもできます。そのときのチャンネル番号は、自動的に最後に表示された番号の次の番号になります。
- 再度、同じチャンネル番号に登録すると、登録内容は更新されます。

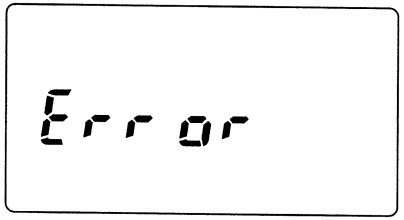
3 FUNCキー[24]を押す

4 MRキー[25]を押す

"ピピッ"と鳴り、登録したチャンネル番号が約1秒間表示されます。



- 適切でないチャンネル番号が入力されて登録されたときは、"ポポ"と鳴り、[Error]が約1秒間表示されます。



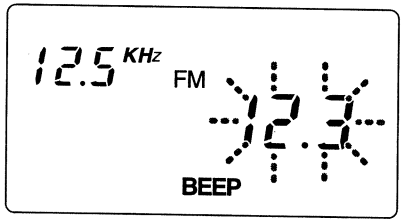
- 180～199のチャンネルは、「オートライト機能」(32ページ)により消去されますので、注意してください。
- 200～209のチャンネルは、プライオリティチャンネル(31ページ)となります。

チャンネルメモリーリード

登録しているチャンネルメモリーを呼び出して受信することができます。

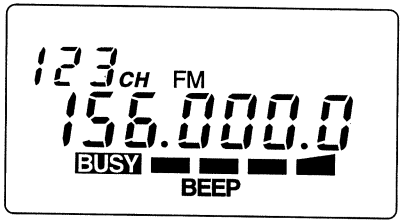
1 呼び出したいチャンネル番号を入力する

数字キーを押して、チャンネル番号(0～199)を入力します。



2 MRキー[25]を押す

選んだチャンネル番号のチャンネルメモリーを呼び出して受信します。



- 選んだチャンネル番号に何も登録されていないときは、周波数が000.000.0の表示になりますが、操作前に受信していた周波数を受信し続けます。
- チャンネル番号を入力しないで呼び出すと、以前に最後に呼び出されたチャンネルメモリーが呼び出されます。
- 適切でないチャンネル番号が入力されて呼び出されたときは、"ポポ"と鳴り、[Error]が約1秒間表示されます。

3 他のチャンネルメモリーを選ぶ

DIALツマミ[7]や▲キー[20]、▼キー[21]で選びます。
▲キーまたは▼キーを1秒以上押し続けると、早送りまたは早戻しができます。

解除するときは、MRキー[25]を押します。VFOモードになります。

チャンネルメモリーの登録を削除する

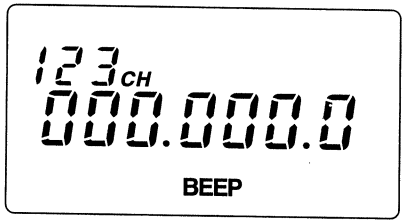
1 削除したいチャンネルメモリーを呼び出す

チャンネルメモリーリードで呼び出します。

2 FUNCキー[24]を押す

3 MRキー[25]を押す

"ピピッ"と鳴り、チャンネルメモリーから削除され、周波数が000.000.0の表示になります。(受信は続きます)



スキャンパスに登録する

チャンネルメモリーにスキャンパスを登録しておくと、スキャン中に受信をパスすることができます。

1 パスしたいチャンネルメモリーを呼び出す

チャンネルメモリーリード、または各スキャンモードで呼び出します。

2 FUNCキー[24]を押す

3 C/ACキー[22]を押す

チャンネルメモリーリードで呼び出したときは、"ピピッ"と鳴り、呼び出したチャンネルメモリーにスキャンパスが登録され、[*CH*]が点滅します。
次のスキャンから受信しなくなります。

- スキャンパスが登録されているチャンネルメモリーも、チャンネルメモリーリードで呼び出すことができます。そのときは[*CH*]が点滅します。
- プライオリティチャンネルはスキャンパスの登録ができません。
- スキャン停止中に、受信中のチャンネルメモリーの登録を削除すると、再びスキャンが始まります。また、チャンネルメモリーがすべて削除されると、"ポポ"と鳴り、[no ! !]が約1秒間表示されます。
- スキャン停止中に、受信中のチャンネルメモリーをスキャンパスに登録すると、再びスキャンが始まります。また、チャンネルメモリーがすべてスキャンパスに登録されると、"ポポ"と鳴り、[ALL PASS]が約1秒間表示され、チャンネルメモリーリードになります。

スキャンパスの登録を解除する

登録したスキャンパスを解除することができます。

1 解除したいチャンネルメモリーを呼び出す

チャンネルメモリーリードで呼び出します。

2 FUNCキー[24]を押す

3 C/ACキー[22]を押す

呼び出したチャンネルメモリーのスキャンパスが解除されます。

- [*CH*]の点滅が点灯になります。

チャンネルメモリーの周波数をVFOモードへコピーする

呼び出したチャンネルメモリーの周波数をVFOモードにコピーし、VFOモードで受信できます。

1 コピーしたいチャンネルメモリーを呼び出す

チャンネルメモリーリードや各スキャンで呼び出します。

2 FUNCキー[24]を押す

3 ▲キー[20]を押す

チャンネルメモリーの周波数がコピーされ、VFOモードになります。

- プライオリティチャンネルをコピーすることもできます。

スキャン

次ページに続く

スキャンは、あらかじめ登録したチャンネルメモリーを順に呼び出しながら自動的に無線局を探す機能です。

スキャンについて

本機には、連続スキャン、バンクスキャンの2種類のスキャン機能があります。
本機では、20チャンネルを1バンクとし、10バンク最大200チャンネルの登録ができます。

チャンネル番号	区分	バンク指定キー
0~19	1	(1)
20~39	2	(2)
40~59	3	(3)
60~79	4	(4)
80~99	5	(5)
100~119	6	(6)
120~139	7	(7)
140~159	8	(8)
160~179	9	(9)
180~199	0	(0)

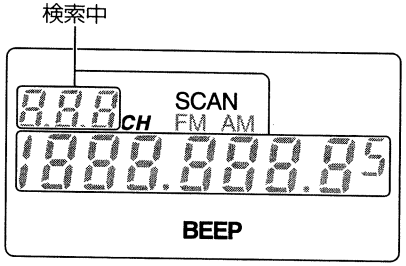
- バンク0(180~199チャンネル)は、オートライト用バンクと兼用です。(「オートライト機能」32ページ)

連続スキャンする

登録したすべてのチャンネルメモリーを、チャンネル番号の小さい順にスキャンして、無線局を見つけると自動的に受信します。

SCANキー[27]を押す

[SCAN]が点灯し、スキャンが始まります。



**解除するときは、SCANキー[27]またはMRキー[28]を押します。
[SCAN]が消灯し、チャンネルメモリーリードになります。**

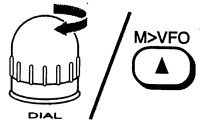
スキャンの方向を選択する

DIALツマミ[7]や▲キー[20]、▼キー[21]を操作する

チャンネル番号の大きい方へスキャン

DIALツマミ[7]を右に回す

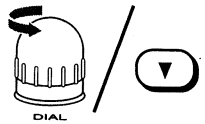
▲キー[20]を押す



チャンネル番号の小さい方へスキャン

DIALツマミ[7]を左に回す

▼キー[21]を押す



- スキャンが停止中(受信中)に、DIALツマミ[7]や▲キー[20]、▼キー[21]を操作すると再びスキャンが始まります。

バスター(特定周波数メモリー)スキャン

MVT-3300には、無線式盗聴器で多く採用されている周波数を65CHメモリーしています。この周波数は、以下の操作でスキャンできます。(この周波数は書き換えできません)

1 **FUNCキー[24]を押す**

2 **数字キー(1)[9]を押す**

[bus]が表示され、バスタースキャンが始まります。

モード中の操作は、他のスキャンと同じです。ただし、スキャンバスの設定は、他のモードに移ると解除されます。

解除するときは、もう1度手順1、2の操作を行ってください。

- バスターバンドには、無線式の盗聴器で多く使用されている65チャンネルがメモリーされていますが、周波数を変えて取り付けられる場合があります。また、正常な目的に使用されている無線局や、2次的に出ている電波もあり、すべてが盗聴器とは限りません。盗聴器の発見には、専門知識が必要です。

バンクスキャンする

指定したバンクの中にあるチャンネルメモリーを小さい順にスキャンします。

1 **数字キーを押して、聞きたいバンクを指定する(バンク指定)**

最大4つのバンクが指定できます。

2 **SCANキー[27]を押す**

[SCAN]が点灯し、バンクスキャンが始まります。

解除するときは、SCANキー[27]またはMRキー[25]を押します。

[SCAN]が消灯し、チャンネルメモリーリードになります。

- 指定した順番にかかわらず、チャンネル番号の小さい順にスキャンされます。
- 指定されたバンクの全チャンネルメモリーがスキャンパスに登録されていると、"ポポ"と鳴り、[ALL PASS]が約1秒間表示されます。

プライオリティ

VFOモードや、各種のサーチ、スキャン、チャンネルメモリーリードで受信中に、あらかじめプライオリティチャンネルに指定したチャンネルを約5秒間隔で連続スキャンします。

プライオリティチャンネルに登録する

1 **登録したい周波数を受信する**

2 **チャンネル番号を入力する**

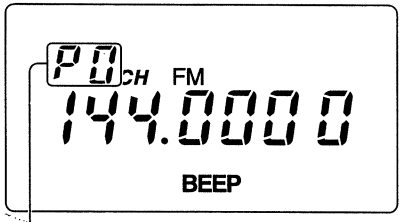
数字キーを押して、その周波数に200～209までの間で番号を入力します。

3 **FUNCキー[24]を押す**

4 **MRキー[25]を押す**

"ピピッ"と鳴り、登録したチャンネル番号が約1秒間表示されます。

プライオリティチャンネルは最大10チャンネルまで登録できます。



チャンネル番号	表示
200CH	P0
201CH	P1
202CH	P2
⟨	
208CH	P8
209CH	P9

登録を削除するときは、チャンネルメモリーリードで呼び出し、手順3、4を行います。

数字キーを使ってプライオリティスキャンする

数字キーを使ってのプライオリティスキャンでは最大4チャンネルを指定することができます。

1 **指定したいチャンネル番号を入力する**

数字キーを押して、チャンネル番号(200～209)を入力します。

数字キー	指定されるチャンネル番号
0	200CH
1	201CH
2	202CH
⟨	⟨
8	208CH
9	209CH

- 入力した順番にかかわらず番号の小さいチャンネル番号からスキャンされます。また、同じチャンネルを2回以上設定することもできます。
- チャンネル番号の入力を省略することもできます。そのときはすべてのプライオリティチャンネルをプライオリティスキャンします。

2 **FUNCキー[24]を押す**

3 **SCANキー[27]を押す**

[PRI]が点灯し、プライオリティスキャンが始まります。

解除するときは、手順2、3を行います。

- プライオリティチャンネルの登録がない場合でも、チャンネル番号を指定することができますが、指定したすべてのチャンネル番号にプライオリティチャンネルが登録されていない場合は、"ポポ"と鳴り、[no ! !]が約1秒間表示されます。

サーチやスキャンの付加機能

スキップ機能

サーチやスキャンの停止後、受信中であっても、約4秒後にサーチやスキャンを再開するように設定できます。

1 **FUNCキー[24]を押す**

2 **数字キー(6)[14]を押す**

[SKIP]が点灯します。
サーチやスキャンを行うと、スキップ機能がはたらきます。

解除するときは、もう1度手順1、2を行います。

- プライオリティチャンネルを受信中は、はたらきません。

オートライト機能

サーチで受信した周波数を、チャンネルメモリーに自動的に登録することができます。登録されたチャンネルメモリーはバンク0(チャンネル番号は、180～199)に自動的に最大20チャンネルまで登録されます。

1 **FUNCキー[24]を押す**

2 **数字キー(8)[16]を押す**

[AW]が点灯し、オートライトになります。

3 **SRCHキー[28]を押す**

サーチが始まり、受信した周波数が、チャンネル番号180から順にチャンネルメモリーに登録されていきます。

途中で解除するときは、SRCHキー[28]を押します。

- SRCHキー[28]を押すと、オートライトを開始する前のバンク0の登録内容はすべて消去されます。
- 20チャンネルすべてに登録されると、"ピピッ"と鳴り、サーチが解除されます。
- サーチを解除すると、オートライトも解除されます。

バンド内容を登録(変更)する

サーチバンドメモリー

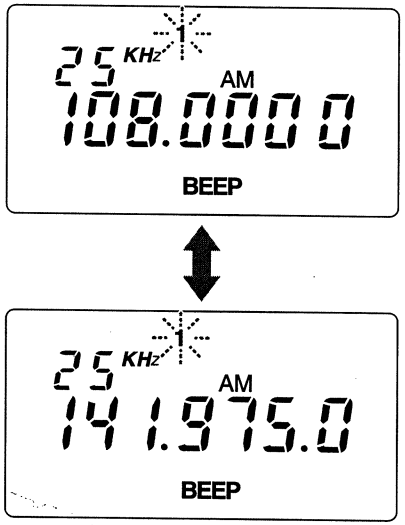
VFOモード中に、サーチするバンド内容の登録や変更ができます。1～9と0のバンドには、あらかじめ特定のバンド内容が登録されていますが、バンド内容を変更することもできます。

1 **FUNCキー[24]を押す**

[FUNC]が点灯します。

2 **SRCHキー[28]を押す**

バンド1のバンドNo.が点滅し、下限周波数、上限周波数が交互に表示されます。



3 **登録(変更)したいバンドを選ぶ**

DIALツマミ[7]や▲キー[20]、▼キー[21]で選びます。

4 **ENTキー[23]を押す**

下限周波数が表示されます。

5 **数字キーで下限周波数を入力する**

周波数表示部に下限周波数が表示されます。

6 **ENTキー[23]を押す**

下限周波数が確定し、周波数表示部に上限周波数が表示されます。

7 **数字キーで上限周波数を入力する**

周波数表示部(下)に上限周波数が表示されます。

8 **ENTキー[23]を押す**

入力した上限周波数と下限周波数が登録されます。
入力された周波数帯ごとにあらかじめ設定されている周波数ステップにより、入力された周波数は調整されて登録されます。

- 上限周波数と下限周波数を入力するときに、C/ACキー[22]を押すと、手順3に戻ります。
- 上限周波数が下限周波数より小さい場合は、[Error]が約1秒間表示され、手順3に戻ります。

便利な機能

モニター機能

受信中の電波が弱く、途切れ途切れに聞こえるときなどに、聞き取りやすくすることができます。

MONIボタン[4]を押す

押している間、モニター機能がはたらき聞き取りやすくなります。
放すと元の状態に戻ります。

- 各種サーチ/スキャン中にMONIボタン[3]を押すと、押している間サーチ/スキャンが停止します。
- スケルチ調整中は、MONIボタン[4]を押さないでください。
- シフトが設定されているときは、違うはたらきをします。(20ページ)

ランプ機能

夜間の照明用です。
ランプが点灯し、ディスプレイやキーを明るく照らすことができます。
2通りの使いかたができます。

LAMPボタン[3]を1度押したとき

ランプが約5秒間点灯します。点灯中に各キーを操作したときは、最後のキー操作から約5秒後までランプが点灯します。

- PWR/VOLツマミ[1]とSQLツマミ[8]の操作をしても、ランプは点灯しません。

FUNCキー[24]を押したあと、LAMPボタン[3]を押したとき

[LAMP]が点灯し、ランプが点灯したままの状態に設定されます。

**解除するときは、FUNCキー[24]を押したあと、LAMPボタン[3]を押します。
ランプが消灯し、[LAMP]表示が消灯します。**

アッテネーター機能

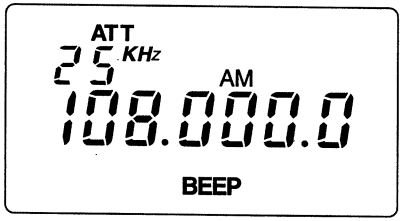
TV放送局などの強い電波の影響で、混信や雑音といった障害を受けるときに、聞き取りやすくすることができます。

1 FUNCキー[24]を押す

2 数字キー(5)[13]を押す

[ATT]が点灯し、アッテネーターが設定されます。

解除するときは、もう1度手順1、2を行います。



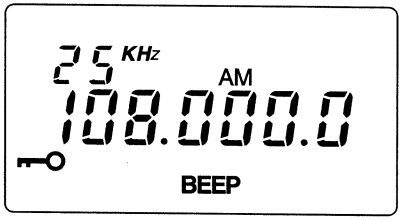
- アッテネーターを設定したときの減衰量は約13dB(300MHzにて)です。
- アッテネーターが設定したままでは、弱い電波の受信ができなくなります。必要な場合のみ設定してください。

キーロック機能

誤動作などを防止するため、キー操作を無効にすることができます。ただし、ロック中でも、FUNCキーとPWR/VOLツマミ(SQLツマミ)、DIALツマミ、LAMPボタン、MONIボタンは操作できます。

1 FUNCキー[24]を押す

2 数字キー(4)[12]を押す



[🔑]が点灯し、ロックされます

解除するときは、もう1度手順1、2の操作を行います。

ビープ音の切換え

キー操作をしたときに、確認のための操作音(ビープ音)が鳴ります。

操作が正しいとき：“ピピッ”
操作が正しくないとき：“ポポ”

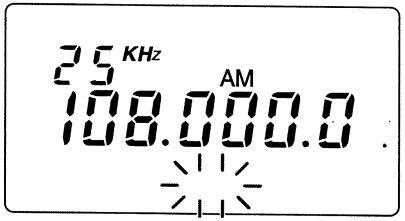
初期設定は鳴るように設定されていますが、鳴らなくさせることができます。

1 FUNCキー[24]を押す

[FUNC]が点滅します。

2 数字キー(7)[15]を押す

[BEEP]が消灯し、操作音が鳴らなくなります。



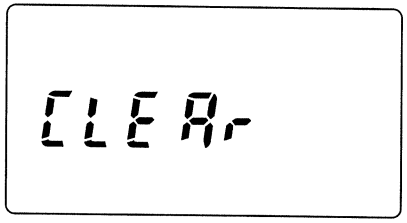
ビープ音を鳴らすときは、もう1度手順1、2を行います。

初期設定について

リセット機能について（メモリーオールクリア）

メモリーをすべて消去して、初期設定の状態に戻すことができます。

C/ACキー22とENTキー23を押しながら、PWR/VOLツマミ1を回して電源を入れる



[CLEAr]が表示された後、VFOモードになります。

■各種機能初期値

項　目	初期設定
動作モード	VFOモード:144.000.00MHz
BEEP	ON
KEY LOCK	OFF
SKIP	OFF
AW	OFF
PRIスキャン	OFF
ATT	OFF
SCR	OFF
SCRチューニング初期値	3.1kHz
チャンネルメモリー	すべて登録なし
PRIチャンネルメモリー	P0:350.1MHz P1～P9:登録なし
サーチパスメモリー	登録なし
カレントチャンネルナンバー	000CH

※各周波数のSTEP周波数/受信モードは、PRESETの設定に従う。

次ページに続く

■主な無線局の周波数範囲と本機に設定されているシフト幅

No.	下限周波数(MHz)	上限周波数(MHz)	SHIFT周波数(MHz)	システム名称
0	142.00000	144.00000	4	救急・地方鉄道など
1	146.00000	148.00000	−4	救急・地方鉄道・ガス事業など
2	148.01000	150.67000	4	警察・救急・消防など各種業務用
3	152.01000	154.67000	−4	警察・救急・消防など各種業務用
4	156.00000	157.42500	4.6	国際VHFマリンバンド(船舶局)
5	160.60000	162.02500	−4.6	国際VHFマリンバンド(海岸局)
6	335.41250	335.58760	16.5	移動警電(移動局)
7	336.00000	336.02500	28.325	JR列車無線(旧Aタイプ列車側)
8	336.03750	336.78750	16.5	JR-B(列車側)・移動警電(移動局)
9	337.81250	338.08750	16.5	移動警電(移動局)
10	339.01250	339.28750	16.5	海自/海上保安庁船舶電話(移動局)
11	340.61250	342.48750	16.5	マリンホン(移動局)・他、各種業務
12	351.91250	352.08750	−16.5	移動警電(基地局)
13	352.53750	353.28750	−16.5	JR-B(指令側)・移動警電(基地局)
14	354.31250	354.58750	−16.5	移動警電(基地局)
15	355.51250	355.78750	−16.5	海自/海上保安庁船舶電話(基地局)
16	357.11250	358.98750	−16.5	マリンホン・他、各種業務
17	364.32500	364.35000	−28.325	JR列車無線(旧Aタイプ指令側)
18	367.01250	367.18750	18	ガス事業用MCA(移動局)
19	371.10000	372.12500	24.1	各種MCA(移動局)
20	382.62500	385.00000	16	各種事業/業務用(移動局)
21	385.01250	385.18750	−18	ガス事業用MCA(移動局)
22	395.20000	396.22500	−24.1	各種MCA(基地局)
23	398.62500	401.00000	−16	各種事業/業務用(基地局)

初期設定について

■主な無線局と周波数範囲と本機に設定されているシフト幅

No.	下限周波数(MHz)	上限周波数(MHz)	SHIFT周波数(MHz)	システム名称
24	410.21250	411.02500	47.2	防災行政MCA(移動局)
25	421.56250	421.91250	18.45	特定小電力無線電話(複信/半複信)
26	434.00000	435.00000	5	430MHz帯アマチュア(レピータアップリンクバンド)
27	439.00000	440.00000	−5	430MHz帯アマチュア(レピータアップリンクバンド)
28	440.01250	440.36250	−18.45	特定小電力無線電話(複信/半複信)
29	450.25000	451.50000	8	タクシー無線(基地局)
30	453.30000	453.33750	14.5	新タクシー無線(基地局)
31	457.41250	458.22500	−47.2	防災行政MCA(基地局)
32	458.25000	459.50000	−8	タクシー無線(移動局)
33	459.52500	459.97500	10	放送事業用(複信の場合は移動局)
34	467.80000	467.83750	−14.5	新タクシー無線(移動局)
35	469.52500	469.97500	−10	放送事業用(複信の場合は基地局)
36	815.00000	820.98750	130	コンビニエンスラジオホン(基地局)
37	830.00000	833.98750	55	各種無線電話(基地局/移動局)
38	834.00000	837.99375	55	MCA/JSMR(中継局)
39	843.00000	845.99375	55	新電電系自動車電話(基地局)
40	847.20000	848.80000	54	地域防災行政MCA(半複信/基地局)
41	850.00000	884.99375	55	MCA/JSMR(中継局)
42	885.00000	888.98750	−55	各種無線電話(基地局/移動局)
43	889.00000	892.99375	−55	MCA/JSMR(移動局)
44	898.00000	900.99375	−55	新電電系自動車電話(移動局)
45	901.20000	902.80000	−54	地域防災行政MCA(半複信/移動局)
46	905.00000	939.99375	−55	MCA·新/旧電電自動車電話(移動)
47	945.00000	950.98750	−130	コンビニエンスラジオホン(移動局)

※テレビの放送局の近くなど、強い電波が入る地域では、その影響を受けて、混信や雑音が入る場合があります。
また、960MHz以上の周波数を受信したときは、指定周波数帯域外の電波を受信することがあります。

故障かな？と思ったら

修理をご依頼になる前に、もう1度次のことをご確認ください。それでも異常や故障と思われるときは、お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部(添付の一覧表をご参照願います)にご相談ください。

症　状	原　因	処　置
ディスプレイに何も表示されない	電池が消耗している	電池を交換する(15ページ参照)
ときどきPCHが表示される	プライオリティ機能がはたらいている	プライオリティ機能を解除する(31ページ参照)
P表示が点滅している	サーチバスメモリーを呼び出している	マニュアルモードにする(24ページ参照)
受信が途切れる	スケルチ調整が誤っている	スケルチ調整を正しく行う(16ページ参照)
	交信局の電波が弱い	MONIボタンを押す(34ページ参照)
	アッテネーター機能がはたらいている	アッテネーター機能を解除する(34ページ参照)
正常な音声で受信できない	スクランブルがONになっている	スクランブルを解除する(21ページ参照)
キーを押しても動作しない	キーロック機能がONになっている	キーロック機能を解除する(35ページ参照)
周波数を入力できない	受信周波数範囲でない周波数を入力している	受信周波数範囲内の周波数を入力する
サーチができない	スケルチ調整が誤っている	スケルチ調整を正しく行う(16ページ参照)
	MONIボタンを押している	MONIボタンを放す(34ページ参照)
	指定されたバンドの全チャンネルがサーチバスに登録されている	サーチバスの登録を解除する
スキャンができない	スケルチ調整が誤っている	スケルチ調整を正しく行う(16ページ参照)
	MONIボタンを押している	MONIボタンを放す(34ページ参照)
	すべてのチャンネルメモリーがスキャンバスに登録されている	スキャンバスの登録を解除する(28ページ参照)
	すべてのチャンネルメモリーに何も登録されていない	チャンネルメモリーに登録する(26ページ参照)

アフターサービスについて

■保証書(別に添付しています)
保証書は、必ず「販売店名・お買い上げ年月日」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りいただき、保証内容をよくお確かめのあと、大切に保管してください。

■保証期間
お買い上げの日から1年間です。

■対象部品
機器本体(消耗部品を除く)

■修理を依頼されるとき
「故障かな？と思ったら」の点検をしていただいても、なお異常があるときは
●保証期間中のとき
恐れ入りますが、お買い上げの販売店まで保証書を添えて製品をご持参ください。保証書の規定に従って修理いたします。
●保証期間が過ぎているとき
お買い上げの販売店にまずご相談ください。お客様のご要望により有料修理いたします。
なお、故障状況は、なるべく詳しくご連絡ください。

■アフターサービスなどについてご不明な点は
お買い上げの販売店または、最寄りの弊社営業所・サービス部(添付の一覧表をご参照願います)にお問い合わせください。

仕　様

受信周波数	：108～170MHz 300～470MHz 806～1000MHz
受信電波型式	：NFM/AM（自動選択）
周波数ステップ	：6.25/10/12.5/25kHz　自動選択
メモリー内容	：チャンネルメモリー…200 バンドメモリー…10（書き換え可） プライオリティチャンネルメモリー…10 サーチパスメモリー…100
受信感度	：AM　0.7μV（SN比10dB以上） NFM　0.5μV（12dB　SINAD）
スキャン/サーチスピード	：1秒間に最大で約40チャンネル/50ステップ
アンテナインピーダンス	：50Ω/BNC
電源	：アルカリ電池（6V/単3×4） ニッカド電池（4.8V/単3×4） 外部電源ＤＣ１２Ｖ（充電不可）…付属ＡＣアダプター/カーコネクター（DC12V車専用）
低周波出力	：100mW以上（4.8V　8Ω　THD10%）
消費電流	：最大出力時170mA 待ち受け時72mA
動作保証温度	：0℃～50℃
外形寸法	：59.0（W）×152.0（H）×32.0（D）mm（突起部含まず）
重量	：310g（アンテナ、バッテリー含む）
付属品	：アンテナ、ＡＣアダプター、シガープラグ付きコード、ハンドストラップ、イヤホン、取扱説明書/ 保証書、お客様ご相談窓口一覧

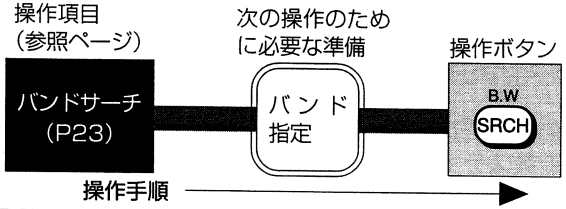
※製品改良のため、仕様および外観の一部を予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

操作早見表

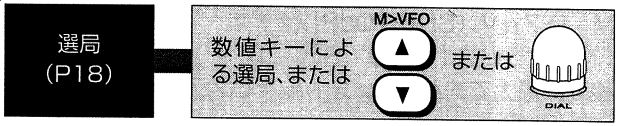
次ページに続く

操作早見表の見方

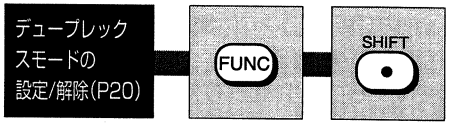
この操作早見表は、左側の操作項目から、右方向へ順に操作してください。操作の詳細については、参照ページをご覧ください。

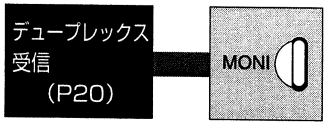


VFOモード



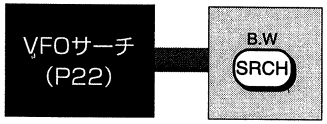
デュープレックス受信

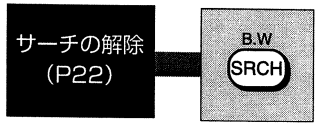




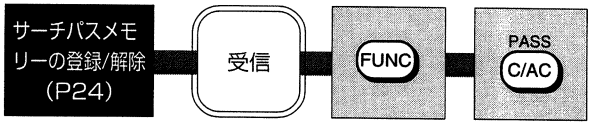
※シフト幅の設定がある周波数のみ

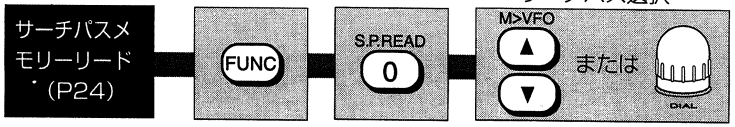
サーチ



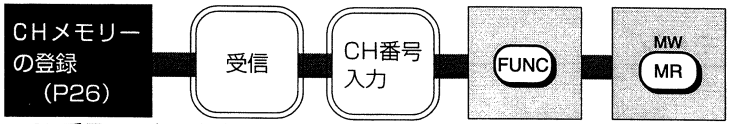


サーチパスメモリー

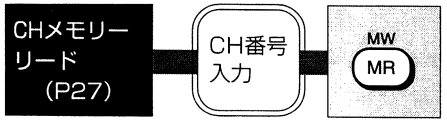




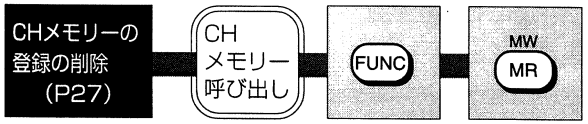
チャンネルメモリー

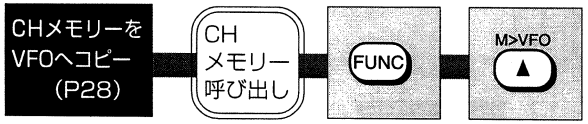


※CH番号の入力は省略することもできます。

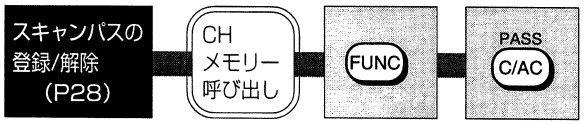


※CH番号の入力は省略することもできます。

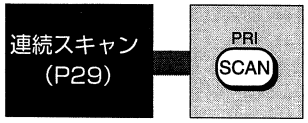


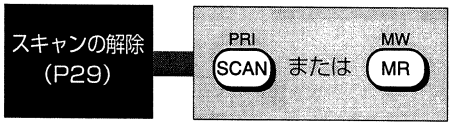


スキャンパス



スキャン



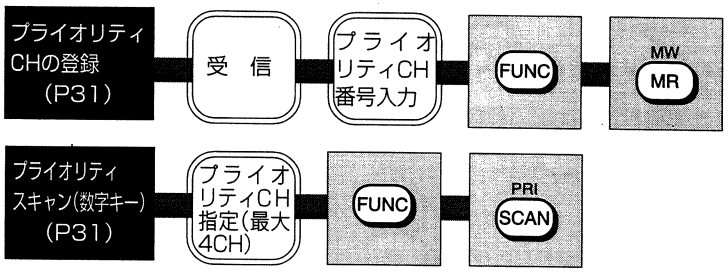


バンクスキャン

操作早見表

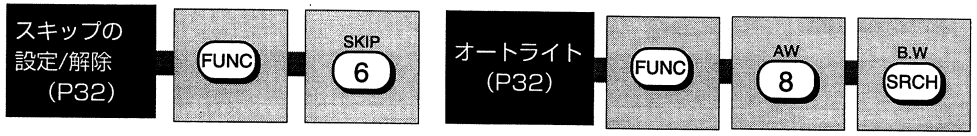
スキャン

プライオリティスキャン

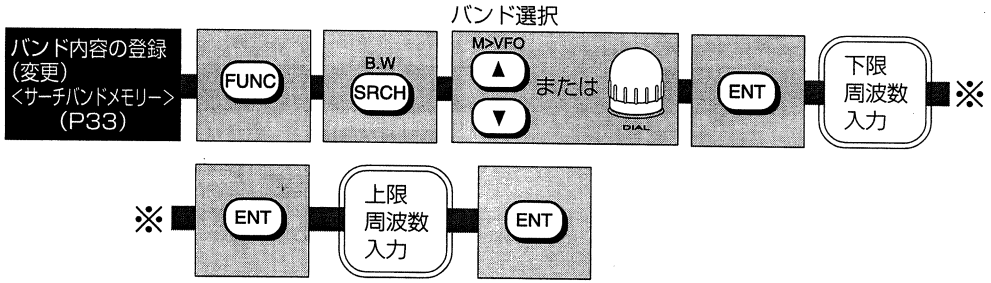
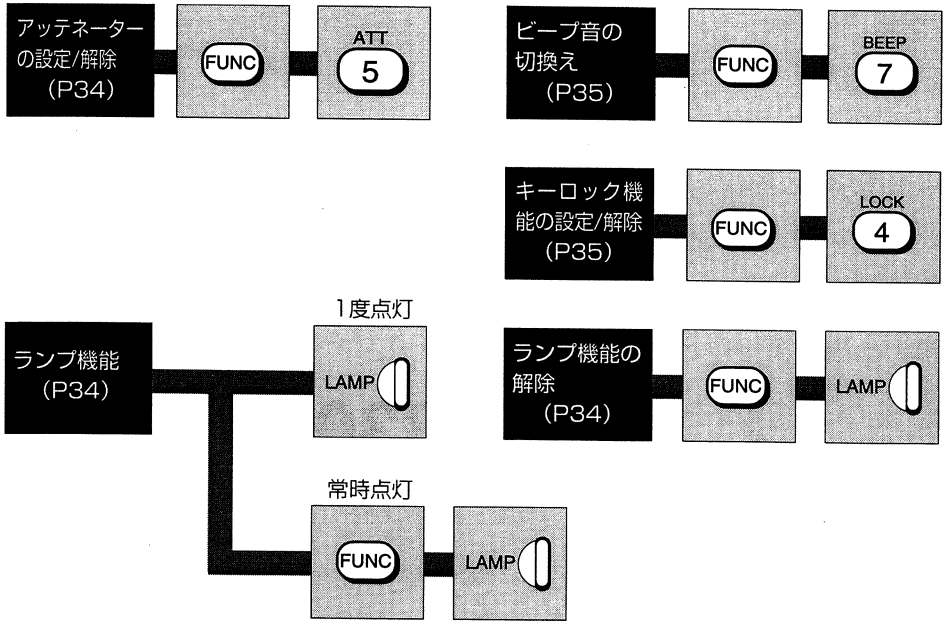


その他の機能

サーチ/スキャン付加機能



特殊な電波を受信するには



便利な機能